

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2000-068851
起案日	平成16年12月 2日
特許庁審査官	佐藤 聡史 3571 5J00
特許出願人代理人	川▲崎▼ 研二(外 2名) 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

## 記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・ 請求項 1-4
- ・ 引用文献 1、2
- ・ 備考

引用文献1(特に、第22、37～49段落参照)には、入出力部はユーザが行う各種の指示入力を受け付け、その内容を制御部に通知するキー入力部や、ユーザに対して報知すべき情報を表示するための表示器などからなり、外部機器と接続を行うための外部機器インターフェース部と、PHS網などの無線通信網を介して外部と無線通信を行う無線部と、外部機器インターフェース部への外部機器の接続の有無を判定し、該判定結果を制御部へ通知する接続状態認識部を有し、該接続状態認識部での判定結果に基づき通信主体を外部機器と通信端末装置本体で切り換えること、及び、データ処理部は受信復調されてメモリ部に格納されているデータに関し、該データの内容を示す表示画像の作成などのデータ処理を行うことが記載されている。

本願の請求項1-4に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、本願の請求項1-4に係る発明は「着信情報の種別」に基づいて着信動作および再生動作を制御し、「着信情報を再生する機能を有する外部ユニットが接続されていない場合に着信情報を記憶手段に書き込む」構成であること、及び、「着信

情報を他の形態の情報に変換する変換手段」を有し、「インターフェースに接続されている外部ユニットが着信情報の再生をすることができず、かつ、変換手段が着信情報を外部ユニットにより再生可能な形態に変換することができる場合に、着信情報を変換手段により再生可能な形態の代替情報に変換し、着信情報の代わりに代替情報を記憶手段に書き込む」構成であり、引用文献1に記載された発明ではそのような構成がない点で相違する。

引用文献2（特に、第103～126段落参照）には、着信情報の種別に応じて設定されている転送先に応じたデータ変換を行い、転送し、該転送先では各端末の有するデータ形式に応じた変換データを受信し、該着信データの内容を再生できること、及び、転送設定されているが転送するメディアが存在しない場合には、着信データをデータ蓄積部に蓄積し、該着信データを蓄積した旨を表示し、ユーザは該着信データが蓄積されていることを該表示によって認識し、該着信データを再生して適宜対応できることが記載されている。

しかして、前者の相違点においては、引用文献1に記載された発明と引用文献2に記載された発明は、共に通信機器と該通信機器に接続される複数の外部端末の間で、該通信機器を介して伝送されるデータを外部端末に応じて制御するという技術的課題を有するものであり、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、着信情報の種別を着信動作および再生動作を制御するための情報として用いることは、当業者が容易に想到し得たものである。

そして、後者の相違点において、本願の請求項3、4の発明では着信情報を代替情報に変換した上で記憶手段に書き込む構成となっているが、引用文献2に記載された発明においても、着信情報を外部端末に対応したデータ形式に変換できること、及び、着信情報をデータ蓄積部に蓄積できることから、着信情報を変換後にデータ蓄積部に書き込むことに格別の難易性は認められない。

しかして、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、インターフェースに接続されている外部ユニットが着信情報の再生をすることができず、かつ、変換手段が着信情報を外部ユニットにより再生可能な形態に変換することができる場合に、着信情報を変換手段により再生可能な形態の代替情報に変換し、着信情報の代わりに代替情報を記憶手段に書き込む構成にすることは、当業者が容易に想到し得たものである。

- ・ 請求項 5
- ・ 引用文献 1、2
- ・ 備考

先に検討した相違点の他に、本願の請求項5に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、本願の請求項5に係る発明は「変換手段による変換がなされたことを報知する変換報知手段」を有する構成となっているが、引用文献1に記載された発明ではそのような構成がない点で相違する。

しかしながら、引用文献2に記載された発明においても、着信情報を外部端末

に対応したデータ形式に変換できること、及び、着信データをデータ蓄積部に蓄積した場合には、その旨を表示できることから、着信情報を変換後にデータ蓄積部に書き込み後、この旨を報知することに格別の難易性は認められない。

しかして、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、変換手段による変換がなされたことを報知する変換報知手段を有する構成とすることは当業者が容易に想到し得たものである。

- ・ 請求項 6、9
- ・ 引用文献 1、2
- ・ 備考

先に検討した相違点の他に、本願の請求項6、9に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、本願の請求項6、9に係る発明は「着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、所定時間の間、無線通信回線を維持することを要求する回線維持要求信号を無線通信手段により通信網側に送信し、通信網側では、無線通信ユニットからの回線維持要求信号を受信した後の所定時間の間は無線通信回線を維持する回線制御を実行する」構成を有するが、引用文献1に記載された発明にはそのような構成がない点で相違する。

しかしながら、移動体無線通信では、移動局と基地局間において通信回線の維持要求に応じて回線維持を行うことは一般的な技術事項であり、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、所定時間の間、無線通信回線を維持することを要求する回線維持要求信号を無線通信手段により通信網側に送信し、通信網側では無線通信ユニットからの回線維持要求信号を受信した後の所定時間の間は無線通信回線を維持する回線制御を実行するように構成することは、当業者が容易に想到し得たものである。

- ・ 請求項 7
- ・ 引用文献 1、2
- ・ 備考

先に検討した相違点の他に、本願の請求項7に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、本願の請求項7に係る発明は「着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、着信の報知を行う報知手段」を有する構成となっているが、引用文献1にはそのような構成がない点で相違する。

しかしながら、引用文献1に記載された発明は、ユーザに対して通知すべき情報を表示するための表示器を有する入出力部を有しており、着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、着信を通知することに格別の難易性は認められない。

しかして、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、着信の報知を行う報知手段を有する構成とすることは、当業者が容易に想到し得たものである。

- ・ 請求項 8
- ・ 引用文献 1、2
- ・ 備考

先に検討した相違点の他に、本願の請求項8に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、本願の請求項8に係る発明は「着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、制御手段は、着信情報の送信元、着信時刻、情報種別のうち少なくとも1つを記憶手段に書き込む」を有する構成となっているが、引用文献1にはそのような構成がない点で相違する。

しかしながら、通信端末において、送受信情報の履歴情報として着信情報の送信元や着信時刻を記録することは、本願出願当時であれ、携帯電話などにみられるように一般的な技術事項であり、引用文献2に記載された発明では着信情報の種別を判別できることから、情報種別を記憶手段に書き込むことも格別の難易性は認められない。

しかして、引用文献1に記載された発明に引用文献2に記載された発明を適用し、着信情報を再生する機能を有する外部ユニットがインターフェースに接続されていない場合に、制御手段は、着信情報の送信元、着信時刻、情報種別のうち少なくとも1つを記憶手段に書き込む構成とすることは、当業者が容易に想到し得たものである。

#### 引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平11-266319号公報
2. 特開平11-205376号公報

---

#### 先行技術文献調査結果の記録

・ 調査した分野	IPC第7版	H04Q	7/00-7/38
		H04B	7/24-7/26
		H04M	1/02
		H04L	12/54、12/58
		G06F	13/00

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

整理番号:DCMH110354 発送番号:450017 発送日:平成16年12月 7日 5/E

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部伝送システム 松野 吉宏

TEL. 03 (3581) 1101 内線 3535

FAX. 03 (3501) 0699

